

# 備陽史探訪

NO.11

◀発行▶  
備陽史探訪の会

親子古墳めぐり

発行所  
福山市西原  
町1863-2  
神谷和孝

「親子古墳めぐり」を終えて

神谷和孝

「親子古墳めぐり」の実施  
 からもう一ヶ月が経過しますが、  
 当日の状況を想いおこす都度、喜び  
 が刺さるたになつて湧いてまいります  
 着し、解散してから、一行が福山駅に帰  
 かかわった者で、反省会を行い、そ  
 の会場を出てから、酔いが手伝つて  
 か、その場で万支三唱を行いました  
 が、本当に心の底から今日の行事が  
 無事に終つてよかつたという喜びの  
 ・当会がよくここまで発展して呉れ  
 たという喜びが交錯しながら湧きあ  
 がり、万支を唱える声も、自然に大

きくなつていきました。  
 本当に当会がよくここまで発展  
 して呉れたものと思ひます。  
 備陽史探訪第九号の中に記しま  
 したように、当会が発足以来ず  
 と、この古墳めぐりに対する計画  
 は、私の心の中であなたのため続け  
 てまいりました。然し、会員が少な  
 いので、その実現は遠い将来  
 の夢と思つておりました。それが発  
 足以来三年目にして実現出来たの  
 です。私にとつて例えようのない  
 の実施に、私だけでなく、この行事  
 の皆様は、私と同じ喜びではな  
 かつたでしょうか。  
 二の計画を実施に移す一ヶ月前

あるボランティア活動の中で怪  
 人が出て、その保障費は、行事の主  
 催者が持たなければならぬとの裁  
 定が下った事は、我々には大きなプ  
 レッシャーになりました。そのため  
 にも、実行段階に入ってから慎重  
 な上にも慎重を期し、五回も、六回  
 も下見を行い、時には小学校生徒を  
 引孕するとう立場から、小学校の  
 先生に無理を申し、下見に参加し  
 ていた。だき、小学生を引孕する立  
 場から、色々アドバイスをしてもら  
 った事もありました。  
 それだけ慎重を期しただけに、福  
 山駅に無事、帰着した時には、今日  
 の行事の成功は、会員が、力を出し  
 合って協力したからこそ出来たのだ  
 と、その協力に感謝せずにはおられ  
 ません。  
 ません。  
 当日は天気にも恵まれ、参加人員  
 も百二十人と予想通りのものとなり  
 総ての点で、この計画は、スムーズ

スに実施されました。  
 参加した小学生の多くが初めて  
 見る古墳に喜びの声をあげ、それ  
 を聞いて来た父母からは、子供と共  
 に学べる事への感謝の声を聞いて  
 所期の目的は充分に果たされたも  
 のと確信していきます。  
 何回も繰りかえしていうようですが  
 すが、此度の古墳めぐりの成功は  
 会の発展の証しと考えています。  
 その成功を会員で喜びあうと共  
 に、これを機に一層の発展を目指  
 して頑張りましょう。  
 最後に、当日の古墳の解説及び  
 パンフレットの作製を担当して  
 いただいた佐藤氏、運営にあたり  
 いただいた方々に、心から感謝の  
 意を表しておきます。



(3) 備陽史探訪

1983年6月5日

親子古墳めぐりを終つて  
佐藤一夫

親子古墳めぐりは、五月五日、天候を  
気にしながらも、百二十名にも及ぶ  
親子古墳めぐりは無事に終ること  
ができました。運営に携わった班長  
は、各会員の努力のたまものといえ  
ます。行事の趣旨の徹底、役割の完  
なにより初めての企画を成功させ  
ようとする意気込みこそが、成功を  
もたらしたと思ひます。あらためて  
皆さんご苦労さまでした。二子塚  
宝塚・狐塚・服部大池・山の神古墳  
二塚といふコースで、横穴式石室  
の古墳のみでしたが、時間的・地理  
的条件でしかたがなかつたと思ひ  
ます。このような企画では最良の  
一スこもいえます。

めぐりを再現してみたい。  
二万五千分の一の地形図で標高  
十五メートルのラインをたどつて  
ほしい。服部川の創り出した扇状  
地は、芦田川流域で最大規模の面  
積を有する。次に、この一帯は品  
治国の本貫であり、古代国家成立  
以前の吉備政権下の備南の動向を  
考えるうえで、種々な視点を与え  
てくれる地域である。四、五世紀  
の状況をみれば、小平野ごとに首  
長墓が形成されて、この地域  
も同様であつた。考えるが、該  
皆さんご苦労さまでした。二子塚  
宝塚・狐塚・服部大池・山の神古墳  
二塚といふコースで、横穴式石室  
の古墳のみでしたが、時間的・地理  
的条件でしかたがなかつたと思ひ  
ます。このような企画では最良の  
一スこもいえます。

古墳のあり方を、古墳めぐりで話し  
た内容と少し視点を変えて紙上古墳  
紀中半、次の段階に、二子塚が  
全長六十八メートルの前の

方後円墳で、全長十二メートルの横穴式石室をもつ。この時期、六世紀後半に前方後円墳は全国でも築造されることは少なく、規模も県下最大である。まことに、品治国造たるにふさわしい古墳である。宝塚、狐塚もほぼ同時期と考えられる。次に、金環塚が出現する。やはり全長十二メートルの横穴式石室で、玄室体積は最大である。六世紀末、七世紀に入り、二塚が平野に進出した形で築造される。そして古墳時代の終りを飾るべく、花崗岩切石の石棺、北塚が作られていく。このように六世紀に入り、急激に質的变化をもつ地域に沼田川流域がある。御年代、梅木平一、古墳の巨大石室墳、石棺をもつ貞丸一、二号墳ほか造られ、飛鳥期の横見廃寺を建立する。ただ、芦田川流域では、白鳳期にならなと寺院が建立されない。この時期差に幾内勢力の浸透の状況を示すといえよう。

それは言うまでもなく、吉備政権の敗北であり、古代国家成立の前史であった。私は、親子古墳めぐりを通して、次代に歴史を伝える必要を感じた。話す内容は興味をもってもらうものにすぎなかつたけど、一人でも歴史に興味を示してくれたら、の気持でした。そのためにも、より広い範囲での歴史の流れを把握しなければ、と感じ、た一日でした。

※ ※ ※ ※ ※ ※

古墳めぐりに参加して

神村育男

五月五日の子供の日に、親子古墳めぐりに参加しました。ここには二子塚、山の神古墳、二塚古墳にまつての事、書きます。

二子塚は前方後円墳でした。石室  
を見るに入り口が埋もれていました  
が、ずっと続いていっているのがわかりま  
した。しかし、ここが前方部、ここ  
が後円部、ここが空堀と教わって、も  
よくわかりません。これは前  
方後円墳といえ、仁徳天皇陵なご  
の航空写真を見ているだけに、パッ  
としなかつたんです。  
今後はそういう写真ばかりでなく、  
歩いてみて考えるのも、必要だと思  
います。  
山の神古墳の山上には小さなほこ  
らがあり、石室の中へ入って  
みると、天井石は比較的小さな石  
でした。石室の中の石に、着色がし  
てあったのはおどろきました。  
非常に残念だ。たのは二塚古墳で  
す。ここには家があるために墳丘が  
なく、石室はまともに露出していて  
、約半程度はありませんでした。こ  
の石室は一日見たものの中で、最大

だ。たの(一)、昔のままの姿で見れ  
たら、立派なものだ。たろうと思  
いました。  
一日、古墳めぐりをしました。が  
どの古墳も、そう簡単に作れる  
ものではない。機械が発達  
した今日でも、作るには、クレー  
ン、ダンパー、ブルドーザー、  
ショベルカー、それぞれが、人  
を配置しても、相当の費用を、日  
数がかります。機械などないこ  
の時代には、多くの人民の犠牲が  
あつたはず。無理矢理働か  
せているうちに、何人の人が死  
んでしまったかも知れません。  
古墳を見て、表面的な点にだけと  
らわれずに裏を考へることも大切  
です。  
古墳の保存状態をみてもよくあ  
りません。代々の遺産を大事にし  
ていってこそ、自分たちの文化が

1983年6月5日

(6) 備陽史探訪

できてくると思います。

（係より・筆者は中学生で当会最年少の  
会員です）

※※※※※※※※※※  
月山城見物の記

政所執事吉田左京亮和隆

十月に当会は一泊二日の旅をする  
その一案、富田月山城を下見すべ  
く、私は愛車のエンジンをかいた。  
平均時速四十キロ、走る事四時間  
山陰へ抜け、青い日本海を見た。米  
子から安来を経て、目的地広瀬町に  
は三十分で着く。  
広瀬町は、中海に注ぐ富田川に沿  
って開けた、山合いの小さな町であ  
る。町の東方に月山はそびえる。富  
田月山城は戦国末期中国地方に覇を  
唱へた毛利元就の本拠である。永祿九  
年に毛利元就により落城する迄、大  
内氏、毛利氏の大軍による包囲を、  
幾度も打ち破った戦壘を持つ。

城は標高二百米余。大きく二つの  
郭に分かれる。山頂の主郭と、中  
腹の大鼓壇と呼ばれる副郭である。  
大鼓壇は周囲に堅固な石垣を廻  
らす。広大な郭で、礎石、井戸跡  
が保存されている。麓から徒歩十  
分程の距離で、居館があったのだ  
ろう。  
主郭は要害月山城の本質である  
細長く続く、長大なる郭があり  
、周井は全て断崖である。大鼓壇  
よりつづれ折りの軍道を登る事四  
十分ようやく主郭の端に辿り着い  
た。傾斜が急な為、道の向背はさ  
つと、郭も途中二つの狭少な物を  
見ただけである。  
主郭の端、三ノ丸に入ると、こ  
こは別世界であった。若草に覆は  
れた狭い平地が何処迄も続くので  
ある。幅十と十五米、長さは三百  
米もあるうか。僅かの高低と、一  
つの空堀、四つの郭に仕切られ、

本丸には祠が祭られる。しかし、周圀は取り着く尾根も無い絶壁で、城を幾つも見た中で、最高の要害と思へる。主郭より北方には出雲の能義平野と中海が遠く望まれ、南方は中国の山々と、その中に消えて行く富田川とそれに沿う街道が見えた。この山上で尼子氏の悲しい物語に思いを寄せながら盃を傾けるのは一興であろう。

さて、広瀬町にはこの他、歴史民俗資料館が城の麓にある。富田川の河床に埋もれた城下町の遺品が納められると言ふ。又山陰有教の規模を誇る足立美術館があり、入館料は高いが、大観他日本画家の作品の数々、広大な庭園等で見応へは充分ある。又安来市には、製鉄の博物館があり、たたらによる製鉄方法も見られる。このように、以上の旅行の目的地としての私の旅は、会の旅行の目的地としての

ては、充( )に興味に富み、かつ見所も多( )地との結論を得て終は、たのである。

※ ※ ※ ※

六月例会のお知らせ  
担当 山口哲品

「本郷の古代と中世」  
今回の例会で訪れる豊田郡本郷町は、文化と史跡の町とうたふより栄えた地域です。

〔探訪箇所〕  
古代を代表する古墳としては、広島県下は勿論、中国地方に於ても最大級の横穴式石室墳である梅木平古墳、花崗岩のくり抜き石棺を二つ収める御年代古墳他、貞丸の二号墳で、中世を代表するものとして、小早川隆景の新高山

城です。この山城は、春日山城、嵯峨山城と共に日本の三大名山城の一角に数えられ、中世城郭から近世城郭への過渡期の城として雄大、かつ重要な城跡です。

以上、教を少なくし、ゆくりと詳細に見て行こうと思っております。御参加お待ちしております。

※ ※ ※ ※

◎新揚載

△Q Aコーナー▽

問 福山に貝塚はありますか。

答 貝塚は昔の人が食べた貝殻を捨てたところ、福山市内では縄文時代から室町時代の頃のものとまでたくさん見つかっています。

おたづねの「貝塚は縄文時代のもの」を指しておられるものと思っておりますが、市内で縄文時代の貝塚として知ら

れている遺跡は、大門町の大門貝塚、木庄町の木庄貝塚、水谷町の洗谷、浜の両貝塚、柳津町の馬取貝塚、同じく下迫貝塚の六ヶ所です。この内、木庄、大門、浜の三貝塚は消滅して現在見ることはできません。皆さんが今でも容易に見学できるのは柳津町の馬取貝塚です。コンクリートの覆屋で保存され、ガラス越しに貝塚の断面を見ることができ、二の貝塚は縄文時代中期から後期（今から五千年〜三千年前頃）にかけてのもの、後期の貝層から発見された土器は馬取式土器として有名なものです。

是非、一度、行って見て下さい。

（係では歴史に関する御質問を）  
お待ちしております。

（田口）



会員の皆様へーお知らせコーナー

◎行事予定

① 総会(臨時) 会則の改正案の検討

(会の目的、行事、等)

六月十二日(日)午後一時から

福山城湯殿で行います。

② 厂史談話会

講師 森本繁(厂史研究家)

演題 福山の幕末維新史

六月十二日(日)午後二時から

福山城の湯殿で行います。

③ 六月例会

三原、本郷の山城趾、古寺を

訪ねて

担当者 山口哲晶氏

実施日 六月二十六日(日)

午前八時二十分 駅裏キャッス

ルホテル前集合

◎ 当日受付をしませんので参加

希望者は六月二十日まで、

会長宅まで 電話か葉書で申

し込めをして下さい。  
尚、参加費は二千三百円  
(会員のみに)とします。

◎ 図書紹介

① 文化財ふくやま (一九八三年度版)

定価七百円

② 文化財ふくやま合本

(才一号、才十号) 定価二千円

※ 右記の図書は一括して購入し

ておりますので 御希望の方

は六月十二日(総会・談話会)当

日代金を御持参下さい。

◎ 次の図書を御寄贈戴きました。

七森義人氏宅に保管してあり

ますので御利用下さい。

① 赤坂町史壹番組編 (五十八・四一) 発行

赤坂町一三二二 宮宗正人編 (会員)

② もこやま第二号 (五十七・九)

第三号 (五十八・三)

府中市本山町郷土史会、府中市本山町四一

③ 坪生たづね歩キ

フぼう郷土史研究会

幹事・藤原正(里一三六九)

神原孝巳(里一〇七〇五)

④ 勾玉十六号

小倉高校考古学部

福岡県北九州市小倉北区愛宕二八

◎ 会員ニュース

① 武島種一氏

神石町文化財保護審議会委員  
に決定されました

② 猪原進氏

四月十七日グランドホテル  
で拳式されました

◎ 係りより

原稿を募集します

一 私のお好きな史跡

一 教えて下さい(前) Q&Aコーナー参照

一 私の思った事

一 会に対する意見：批判(匿名可)  
以上の事について原稿を募集し  
ます。字数は四百字詰め原稿用  
紙二枚以内とします。

一 編集後記

今回は「親子古墳めぐり」の特集  
でした。当日交通指導の係をし  
ていただきました。末森清司氏  
(会員)から「親子二ふんめぐり  
の反省」と題する、約五百字の反  
省文をお寄せいただきました。  
紙面の都合で当会報に載すこと  
ができませんでした。大変申し  
分けありません。

前 No.10 号で文字を小さくしたも  
のの今回は再び大きくしてみま  
した。どちらが読み易いでしょう

うか。次回ぐらうからどちら  
かに決定しようかと考えていま  
す。  
(一九八三・六・五)